

国指定重要文化財 江戸時代

① 後藤家住宅

庄屋であった後藤家の住宅は、およそ18世紀中頃の建築と考えられ、直屋農家の好例として昭和50年 重要文化財として国指定を受けた。

※直屋＝民家の形態の一つで、長方形で周囲に突出部をもたない形のもの。



県指定史跡 江戸時代

② 参勤交代道路

今市は、文禄3年(西暦1594年) 岡藩の藩主となった中川秀成によって宿場として整備され、その後肥後藩主の参勤交代休憩地としても利用された。

道幅8.5メートルの中央部に幅2.1メートル長さ660メートルにわたり、石畳が残っており昭和47年史跡として県指定を受けた。

文化庁「歴史の道百選」豊後・肥後街道－鶴崎路に今市石畳の660mが令和元年10月に追加された。



市指定有形文化財 室町時代

③ 西福寺宝篋印塔

宝篋印陀羅尼經を納めた供養塔。総高は258.5cm。基礎は三重がらなり蓮華座を刻んでいる。

※蓮華座＝仏像の台座の一種。



市指定有形文化財 江戸時代

④ 木造毘沙門天立像

天邪鬼の上に毘沙門天像が立つ65cmの像。

身にまとう甲冑や怒りの表情が細やかに彫られている。



市指定有形文化財 安土桃山時代

⑤ 永富家逆修碑(三基)

板碑と呼ばれる供養石碑が三基並立している。「地藏菩薩」「阿彌陀如来」「虚空蔵菩薩」の仏像と種子が刻まれている。

建てられた年代、趣旨が明らかなで貴重な碑。

※逆修＝生前に供養するという意味。
※種子＝仏教の諸教を梵字＝文字で表したものだ。



市指定有形文化財 戦国時代

⑥ 福城寺逆修石幢

総高256cmの石幢で方柱状の幢身に四方仏の種子が刻まれている。



市指定有形文化財 南北朝時代後半

⑦ 福城寺宝塔

総高244.5cm。基礎は二重、側面に格状間はなく、塔身はくり貫いていない。

※格状間＝仏壇などの基壇部の側面を装飾するもの。



市指定有形文化財 室町時代前半

⑧ 木造薬師三尊立像

薬師如来立像、日光菩薩立像、月光菩薩立像の三尊一具の像。いずれも松材の一木彫像で彫眼像。

※彫眼像＝木地から直接掘り出した眼の像。それに対して水晶を使用したものは玉眼像と言う。



市指定有形文化財 江戸時代

⑨ 宝泉寺大乗妙典一字一石塔

総高215cmの一字一石塔で、基礎石一段の上に自然石状の塔身を乗せている。

※大乗妙典＝一般的に法華經と言われている。
※一字一石塔＝經典を小石に一字ずつ書きしたものを地中に埋めて、その上に建てた塔。



市指定有形文化財 室町時代

⑩ 原田家宝篋印塔

相輪上部を欠く以外は完形。塔身は円形のがんをうがう四仏を陽刻している。

※相輪＝仏塔の最上部の裝飾物。
※がん＝仏像を彫っている部分。
※四仏＝大日如来を囲む四方の仏。
※陽刻＝文字や模様を出っ張らせた彫り方。



市指定有形文化財 室町時代前半

⑪ 山の川石造宝塔・宝篋印塔

宝塔の塔身に多数の墨書跡の跡が認められるが判読不能。ほぼ完形で残っている。



市指定有形文化財 室町時代中期

⑫ 地福寺宝塔

二基が並立している。どちらも部分的に小損している以外は、ほぼ完形で残っている。ほぼ同形だが蓮華座の刻出に若干の相違がみられる。



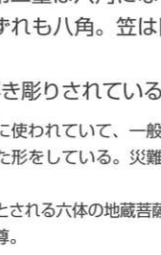
市指定有形文化財 江戸時代中期

⑬ 地福寺石幢

基礎は二重で、第一重は四角、第二重は八角になっている。幢身・中台・がん部はいずれも八角。笠は円形で宝珠を欠いている。

がん部には六地藏と十王二軀が浮き彫りされている。

※宝珠＝仏塔の頂上や横の欄干などの裝飾に使われていて、一般的に下が球形で上が円錐形に上がった形をしている。災難を除くと言われる。
※六地藏＝仏教において衆生の苦しみを救うとされる六体の地藏菩薩。
※十王＝地獄において亡者の審判を行う十尊。



市指定有形文化財 南北朝時代

⑭ 木造衣冠釈迦如来座像

大衣を着て衣冠を被り、法界定印の印を結ぶ釈迦如来像。

松材を使用した寄木作りの玉眼彩色像。

※大衣＝袈裟のひとつ。
※法界定印＝仏像の手や指の組み方のひとつ。
※玉眼彩色像＝水晶を利用して眼を表現した像。



市指定有形文化財 室町時代後半

⑮ 原村石幢

総高269cm。基礎は一見四角に見えるが六角が破損したもののようである。幢身は円柱で、中台と笠は六角、がん部は十一角。



市指定有形文化財 戦国時代

⑯ 摺石幢

総高226cm。基礎は二重で平面四角形、幢身・中台・笠・露盤(塔の頂部)全て八角形。

六地藏及び司録・司命の計八体が半肉彫りされている。

※司録・司命＝閻魔大王に亡者の罪状を読み上げたり記録したりする役目をもつとされる者。



市指定有形文化財 鎌倉時代後半

⑰ 銅造観音菩薩立像

像高26.2cm。本来は木製の銅板に貼り付けた懸仏であったものを像の前半身のみを鋳出したと推定される。

※懸仏＝円形板に浮彫の仏像を取付け、上方二カ所に釣手環をつけて吊下げるのに便利にしたもの。



市指定有形文化財 江戸時代

⑱ 丸山神社楼門

享保5年(西暦1720年)、地元の豪商の寄進により建てられた。

楼門の棟高8m。入母屋造り、銅板葺の唐破風付構造。酒造りの過程等数々の彫刻が施されており、残っている棟札から、過去4回補修された事が確認できる。

※入母屋造り＝屋根の形式の一つ。寄棟造の上に切妻造を載せた形。
※唐破風＝破風(切妻屋根の端の山形の板部分)の一種でそり曲がった曲線状のもの。



市指定史跡 戦国～江戸時代初期

⑲ 佐藤家墓地五輪塔群

五輪塔完形が四十十一基。欠損のあるものが十数基。また、宝塔二基、一字一石供養塔一基がある。これだけ多くの五輪塔がまとまってあるのは貴重。



市指定史跡 安土桃山時代末期～江戸時代初期

⑳ 鶴迫磨崖仏

岩壁にがんをうがち、地藏菩薩の坐像を中心に左右に各三体ずつ同立像を半肉彫りし、彩色を施している。

※半肉彫り＝彫刻用語。浮き彫りの一種。



市指定史跡 室町時代末期

㉑ 鶴迫磨崖連碑

六ブロックに分けた浅いがんを岩肌にうがち、その中に線彫りで十五基の板碑がある。

※連碑＝板碑と呼ばれるものが二つ以上繋がっているものをさす。
※板碑＝平板石を用いた石碑の一種で主に供養塔として使われた。



市指定無形民俗文化財 明治時代～

㉒ 岡倉神楽

起源は明確でないが、地元の話では明治時代から伝わる伝統芸能。



その他 安土桃山時代

㉓ 利光一統陵墓

天正14年(西暦1586年)7月、羽柴秀吉率いる九州征伐軍が島津氏を討つため同行した利光一族の兵が、その後地元根付いたことが起源と推定されるが根拠不詳。



その他 江戸時代

㉔ 参勤交代道中安全祈願碑

参勤交代道路の渡河地点なので、道中の安全を祈願するためにここに建てたと伝わっている。



その他 江戸時代

㉕ 往還田(跡地)

江戸時代の参勤交代道路(往還)の一部が払い下げられ、田として利用された箇所を往還田と呼んだ。

市道野津原狭間線にその一部が取り込まれ、現在その箇所にブルーの塗装が施されている。



その他 平安時代～安土桃山時代後期

㉖ 鷲が城跡

康平5年(西暦1062年) 植田庄司、大津季定が築城。

慶長5年(西暦1600年)当時の城主貞世の子により焼き払われるまで40年間行政基地として続いた。

※庄司＝荘園領主から任命され、荘園を管理し、荘園内の雑務を司った役職のひとつ。



その他 江戸時代

㉗ 清正公殿

法蔵寺境内にある清正公殿は、加藤清正を祀るために細川氏によって創建された。



その他 明治時代～

㉘ 野津原神社(加藤神社)

加藤清正公を祀る。鳥居には「加藤神社」とある。



その他 不詳

㉙ 宇曾嶽神社

標高644mの宇曾嶽山頂にあり、古くから子宝明神。虫封じの神として知られる。



その他 江戸時代

㉚ 赤坂の石畳

伊塚の石畳まで参勤交代道路が続いており、石畳が残っているが、倒木、落ち葉等の堆積により通行が困難な箇所もある。



その他 江戸時代

㉛ 夜泣き止め地藏

赤坂石畳と伊塚石畳の間の峠に設置されている。

堂の裏手に洞穴があり、半肉彫りされた地藏が祀られている。



その他 江戸時代

㉜ 伊塚の石畳

赤坂の石畳まで参勤交代道路が続いており、石畳が残っているが、倒木、落ち葉等の堆積により通行が困難な箇所もある。



その他 江戸時代

㉝ 矢貫の石橋

肥後街道の矢貫川にかかる一枚岩の石橋。

兩岸の石積みは上部が狭まるように川にせり出して組まれている。

現在は車輦の通行のため、石橋を覆うようにコンクリート舗装されている。



その他 不詳

㉞ 鈴ヶ滝

昔、繁美城主佐藤監物が後に出家し竹の内法泉寺を興し、修行場として利用したもので、滝の岩壁に月と太陽の形が刻まれている。



その他 中世～江戸時代

㉟ のろし台

地元の人が「ノノ台」と称する山頂に開けた台地。参勤交代時の連絡のためにのろしを上げていたと伝えられる。

かつて頂上に12mほどの窪地があって、そこで炭を焼いていたという。



その他 不詳

㊱ 一荷和尚像

地福寺本堂に一荷和尚像が祀られている。

本名は「一掃台然大和尚」と言う。

大変な力持ちで、本堂の屋根葺き替えるのために必要な分の竹を今市の榎家の山から一度に担いで帰ったことから一荷和尚と呼ばれるようになったという言い伝えがある。



その他 鎌倉時代～室町時代

㊲ 繁美城跡

奥州から緒方三郎を頼って来た佐藤治郎が太田繁山を賜り、建久7年(西暦1196年)築城し城主となり、天文4年(西暦1535年)焼き討ちにあうまで20代400年の歴史がある。



その他 不詳

㊳ 惚れ地藏

高さ90cm、凝灰岩の地藏。夫婦円満、子孫繁栄の道祖神として祀られたものと思われる。

地藏の凹みの部分を削り、その粉を相手に知れないようにふりかけると恋の願いが叶うとの言い伝えがある。

※道祖神＝村境や峠の道端に石像や石碑の形で祀られ、外から来る魔・災いを遠回り防いで安全を守るとされる神。



その他 不詳

㊴ 岩切場の跡

岩切場があったとされており、「天保6」の浅彫文字が残る。



その他 令和元年度完成

㊵ ななせダム

昭和45年の予備調査からおおよそ半世紀を掛けて令和元年度完成のななせダムは大分川河口から約28km上流の七瀬川に建設されたロックフィル式ダムで、九州・沖縄にある同形式のダムとしては3番目に大きなダム。



その他 江戸時代

㊶ 三渠碑

肥後藩谷村(現、由布市挾間谷村)の惣庄屋工藤三助は生涯をかけて大滝井路、鐘小野井路、掟子井路の建設に取り組んだ。

その功績を称え、嘉永6年(西暦1853年)に三渠碑が基石に建てられた。



その他 明治時代～

㊷ 荷小野の獅子舞

八所神社の神幸祭に奉納される。

明治13年に始まったとされる。

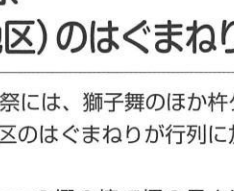


その他 不詳

㊸ 杵ヶ原と尾原(現、長尾台地区)のはぐまねり

荷小野の八所神社の神幸祭には、獅子舞のほか杵ヶ原地区、尾原(現長尾台)地区のはぐまねりが行列に加わった。

「はぐま」とは、直径5cmの檜の棒で柄の長さは二間一尺(約4m)、頂上に傘型に馬の毛を取り付けたもので、この棒をまっすぐ立てて回すと頂上の毛は遠心力で傘をひらいたように広がる。これを「はぐまうた」にあわせて練り歩く。



その他 室町時代

㊹ 石合石幢

総高232.5cm。基礎は二重、宝珠と請花以外は平面四角。がん部は各面を二区に分ち、六地藏六軀と十王二軀を一級ずつ陽刻している。

※請花＝宝珠などの下についている花形の飾り。



その他 平安時代～

㊺ 高岩神社のトチの木

高岩神社は天安2年(西暦858年) 熊野三所権現の分霊を奉じ、建立したのが始まりとされる。

このトチの木は、貞観5年(西暦863年) 神社創建の際、熊野から持ち帰った種子を、記念に植えたと伝えられている。県指定特別保護樹木。



その他 江戸時代

㊻ 今市宿場の汲み上げ井路

今市町の山中に水の汲み上げ場があり、石畳が敷設されている。



その他 不詳

㊼ 今市地藏菩薩・弘法大師座像

左側に地藏菩薩、右側に弘法大師の座像がある。

野津原に伝わる民話「帰りがたったお地藏さん」のモデルになったとされるが、経緯は不明。



その他 江戸時代

㊽ 今市水神大明神

祠等は無い。屋根内側の左上に神棚があり、水神様が祀られている。



その他 戦国時代

㊾ 双石城跡

中世戦国時代に難攻不落の城塞があったと伝えられ、山腹には墓群がある。



その他 明治時代～

㊿ 白家神楽

丸山榎家が正式名称。



その他 江戸時代

㊽① 夢のお告げて割った岩

宝永4年(西暦1707年)、工藤三助らにより完成した鐘小野井路は途中、巨岩のために難工事に見舞われたが、夢の中にあられた不動明王のお告げに従って、岩を焼き水をかける事で岩を砕くことが出来たと言われている。「No.41 三渠碑関連」

